

令和3年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立高齢者総合サポートセンター (かがやきプラザ)	所在地	千代田区九段南1-6-10
-----	---------------------------------	-----	---------------

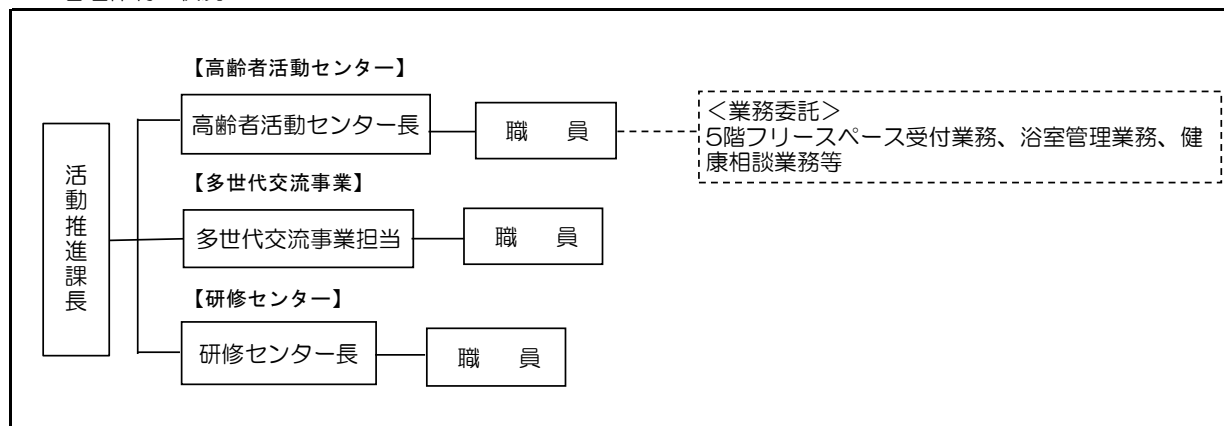
1 指定管理者の概要

名称	社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会	代表者	会長 田邊 恵三
所在地	千代田区九段南1-6-10		
指定期間	令和3年4月1日～令和13年3月31日	報告期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	<p>【高齢者活動センター】 高齢者の各種相談に応じるほか、健康の保持・増進、教養の向上、レクリエーションなど、健康づくりや社会参加の機会をつくり、高齢者福祉の増進を図る。</p> <p>【研修センター】 福祉ボランティア、家族介護者、介護・福祉サービス等従事者のスキルアップ研修、介護と医療の連携を図る研修、介護職の人材確保等を目的とした事業、区民の福祉理解の促進事業を通して、高齢者総合サポートセンターの設置目的である地域包括ケアシステムの推進を行う。</p> <p>【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）!～】 子どもから大人まで多くの区民の出会いを促進し、人と人がつながり、交流する場を創出する。</p>
管理業務の内容	<p>【高齢者活動センター】</p> <p>(1) 高齢者活動センター事業に関する業務</p> <p style="margin-left: 20px;">①健康維持増進、機能回復訓練</p> <p style="margin-left: 20px;">②教養の向上、レクリエーション</p> <p style="margin-left: 20px;">③健康相談、指導等</p> <p>(2) 施設・設備の保守および維持管理</p> <p>【研修センター】</p> <p>(1) 次に挙げる講習、講座等の開催</p> <p style="margin-left: 20px;">①ボランティアの育成と活動支援</p> <p style="margin-left: 20px;">②家族介護者のスキルアップ</p> <p style="margin-left: 20px;">③介護・福祉従事者のスキルアップ</p> <p style="margin-left: 20px;">④福祉知識の普及・理解促進</p> <p style="margin-left: 20px;">⑤介護・福祉人材の育成と就職・復職支援</p> <p style="margin-left: 20px;">⑥介護カウンセリング</p> <p>(2) 閲覧室の管理</p> <p style="margin-left: 20px;">①利用開放</p> <p style="margin-left: 20px;">②備品・物品の維持管理</p> <p>【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）!～】 多世代交流の促進</p>

3 管理体制の状況



4 事業実績等

【高齢者活動センター】

ア 利用者数実績

	年間開館日	利用者数		利用登録者数	(内新規登録者数)	浴室		
		一日平均利用者数				浴室開設日数	入浴者数	一日平均入浴者数
令和3年度	281日	31,836人	90人	800人	(117人)	280日	13,418人	48人

※令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、利用登録更新手続きを行わなかったため、実利用人数を記載

	健康増進			講座等	催し物	団体支援	ふれあいクラブ	ボランティア活動	娯楽室開放ほか
	健康づくり事業	機能回復訓練	その他健康事業	講座・講習会等	手づくり事業・レクリエーション	同好会・長寿会支援			
令和3年度	14,132人	268人	5,263人	1,372人	610人	1,614人	775人	531人	7,271人

イ 活動事業実績

項目	内容
活動センター事業	<ul style="list-style-type: none"> ・かがやき大学前期(24回・630名)・後期(23回・420名)、講習会(35回・316名) ・ふれあいクラブ(お元気会:101回・7,463名)・記念講演会(3回・170名) ・映像・映画サロン(4回・41名)・シアターサロン(19回・206名) ・Bon Dance(12回、105名)・オペラミニコンサート(2回、38名) ・クリスマスコンサート(36名)・ゆず湯(1回、51名) ・サンタがセンターにやってくる(1回、4名)・クリスマスコンサート上映会(1回、7名) ・ひだまり節分会(1回、28名) ・動画配信(42回、1,971閲覧数)、脳のトレーニング毎日配信(360回)
同好会活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・同好会53団体
長寿会活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿会各地区例会・誕生会での健康講座等の開催(28回、769名) ・連合長寿会役員会(9回)・連合長寿会のんびりお散歩会(1回、24名)・連合長寿会のんびりバスツアー(1回、56名) ・連合長寿会広報紙「はくちょう」発行(年2回)
ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動(174回、活動人数531名)
PR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・月報「のぞみ」発行(毎月)、高齢者活動センター利用の手引き、同好会の手引きの発行、区報・社協だより等に事業掲載、ホームページで情報発信、YouTubeで脳トレを配信

ウ 施設の維持管理業務

- ・浴室浴槽管理業務(定期点検含む)
- ・5階フリースペース案内受付業務(利用証確認等)

【研修センター】

ア 活動事業実績

(1) 講習、講座等

	回数	のべ参加者数
ボランティアの育成と活動支援	13回	311人
家族介護者のスキルアップ	8回	151人
介護・福祉従事者のスキルアップ	47回	935人
介護と医療の連携づくり	9回	266人
区民向け福祉・医療学習	6回	176人
介護・福祉人材の育成と就職・復職支援	2回	26人
介護カウンセリング	24回	23人
講座等実績計	109回	1888人
(2) 閲覧室利用開放(仕様書第1条第2項⑤)日数	150日	—

【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）!～】

ア 活動事業実績

(1) 講習、講座等

	回数	オンライン 閲覧数	のべ 参加者数
チャオチャンネル	21回	2644回	—
多世代交流カレッジ	15回	15回	390人
ひだまりサロン	3回	—	32人
協働事業	—	—	—
その他企画	5回	—	1101人
ボランティア実績	23回	—	155人
実績計	67回	2659回	1678人

5 収支の状況

【高齢者活動センター・多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）!】

収 入		支 出	
指定管理料収入	110,706,000円	人件費支出	76,085,756円
事業収入	225,200円	施設維持管理費支出	6,088,922円
その他収入	52,692円	事務事業費支出	22,635,064円
合計(①)	110,983,892円	合計(②)	104,809,742円
収支差額(①-②)	6,174,150円		

【研修センター】

収 入		支 出	
指定管理料収入	30,531,300円	人件費支出	14,754,867円
事業収入	14,600円	事務事業費支出	7,571,456円
その他収入	0円	合計(②)	22,326,323円
合計(①)	30,545,900円		
収支差額(①-②)	8,219,577円		

【その他(1階総合受付業務、諸室貸出業務)】

収 入		支 出	
指定管理料収入	13,079,000円	事務事業費支出	13,066,077円
事業収入	0円	合計(②)	13,066,077円
合計(①)	13,079,000円		
収支差額(①-②)	12,923円		

【総計】

収 入		支 出	
指定管理料収入	154,316,300 円	人件費支出	90,840,623 円
事業収入	239,800 円	事務事業費支出	49,361,519 円
その他収入	52,692 円	合計 (②)	140,202,142 円
合計 (①)	154,608,792 円		
収支差額 (①-②)	14,406,650 円		

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
<p>【高齢者活動センター】</p> <p>①施設運営 長引く自粛生活による高齢者の心身機能の低下を防ぐため、再度の緊急事態宣言下で休館していた施設運営を5月中旬から再開。その後、休館することなく、トレーニングマシンや浴室から利用を再開し、利用者の要望も聞きながら、娯楽室の開放事業や同好会活動も段階的に再開した。(のべ参加者数：31,836名)</p> <p>②同好会活動の支援 すべての同好会活動を再開し、活動を支援した。再開により、外出する機会や仲間との関わりができ、不安等のストレスが解消できたとの声があった。また、同好会作品展、同好会主催の体験会等の開催を支援した。</p> <p>③健康づくり・介護予防 理学療法士による身体の勉強会、インボディ測定会を毎月継続して実施。8月からはスポット体操を再開し、好評のため各回2部制で実施し、体力改善を図った。(トレーニングマシン利用：のべ4,570名、身体の勉強会：6回45名参加、インボディ測定回：22回117名参加、スポット体操：24回223名参加)</p> <p>④社会参加の支援 高齢者の社会参加支援としてのかかやき大学は、7～9月を前編、10～12月を後編として、すべて対面で実施し、フレイル予防に関する講座も取り入れ、介護予防を強化した。(全47回、のべ1,050名参加)。</p>	<p>【高齢者活動センター】</p> <p><収入状況> 収入予算額 107,359,000円 収入決算額 107,108,692円 執行率：99.8%</p> <p><支出状況> 歳出予算額 107,359,000円 歳出決算額 102,518,364円 執行率：95.5%</p> <p><分析> ①かがやき大学の執行率が54.7%であった。コロナ禍のため、対面開催に代わり講演会を撮影したCDの作成費を見込んでいたが、すべて対面で開催できたため、支出減となった。</p> <p><総評> 利用者の安全を第一に考えて施設運営・事業運営を行うとともに、コロナ禍でも事業は中止せず、工夫して実施した。今後も千代田区と連絡を密に取りながら、コロナ禍で顕著となった高齢者の閉じこもりや筋力の低下、他者との交流減を解消できるよう、高齢者の介護予防、健康づくり、社会参加支援に取り組む。</p>

<p>【研修センター】</p> <p>①ボランティアの育成と活動支援 認知症サポーターや調理サポーター養成講座、介護の入門講座の開催と終了後の活動紹介により、高齢者の家事援助活動（有償）、高齢者のふれあい食事会、車イス利用者の付き添いボランティア、区内介護事業所のクッキングサポーター等の活動につながった。</p> <p>②家族介護者のスキルアップ 家族介護者向け研修においては、対面実施と共に初のオンライン配信を行い、昨年度の倍の申込みがあった。（6回のべ124名）</p> <p>③介護・福祉従事者のスキルアップ 新型コロナウイルスの感染状況に合わせ、対面型やオンラインで研修を実施した。また、介護従事者向けの研修の充実を図るため、eラーニングシステムも活用し、いつでもどこでも研修を視聴できるようサポートした。認知症ケア研修は計9回実施し、認知症理解の基本から若年性認知症への理解、当事者の話、頻発する災害等もテーマに入れて開催した。また、要望が多くあった新型コロナウイルスへの対策研修も実施した。介護福祉士、ケアマネジャー、社会福祉士資格対策講座の他に、社会福祉士国家試験に向けた自主勉強会の呼びかけを行い、つながりづくりと試験合格につながった。</p> <p>④医療と介護の連携 コロナ禍の在宅医療の連携における医療従事者の話や、薬剤師の取り組みをテーマに多職種協働研修をオンラインで2回開催した。</p> <p>⑤介護・福祉人材の育成と就職・復職支援 中止となった介護・福祉のしごと相談面接会の代替事業として、希望者に事業所の動画を配信したところ、2名が区内事業所の就職につながった。</p>	<p>【研修センター】</p> <p><収入状況> 収入予算額 33,151,000円 収入決算額 30,545,900円 執行率：92.1%</p> <p><支出状況> 歳出予算額 33,151,000円 歳出決算額 22,326,323円 執行率：67.4%</p> <p><分析> ①介護・福祉人材と就職・復職支援事業の執行率は35.1%であった。新型コロナウイルス感染拡大にともなう緊急事態宣言のため、対面開催を予定していた介護・福祉のしごと相談面接会が中止になったことによる支出減である。（※代替事業実施） ②また、介護職員初任者研修・介護福祉士実務者研修受講費助成金申請の実績減、介護福祉士・社会福祉士実習指導者養成講習助成金申請も申込みが少なかったことにより、支出減となった。</p> <p><総評> コロナ禍の影響により、研修事業の多くをオンラインに切り替えて実施したことにより全体的に支出減となった。計画どおりの研修は実施できたが、事業の連携先となる区内の介護人材の養成校の閉校もあり、介護職確保については新しい取り組みが求められている。</p>
<p>【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）!～】</p> <p>①対面・オンラインを活用した多世代交流事業の実施 ・スポーツ、音楽、芸術、文芸等を交流ツールにし、その過程で参加者同士の自然な会話が生まれるようなプログラムの実施 ・区の特徴である外国の文化会館と連携した異文化体験や外国のあそびを通じた交流 ・3拠点をオンラインでつないだクイズ大会やオンラインサファリツアー等、オンラインでしかできない多世代交流の実施</p> <p>②多世代交流に関わるボランティアの養成 アナウンサースクールを開催し、小中学生のチャオレポーターを養成し、まちの人へのインタビューや多世代交流イベントのレポートをチャオチャンネルで配信（3回79名、大学生ボランティア26名が協力）</p> <p>③～離れていても多世代交流～チャオチャンネルの配信 大学生ボランティア、区民、高齢者活動センター同好会等、多様な団体や多世代参加型の内容で配信（11回・視聴数2,644回）</p> <p>④区内大学生のボランティアの推進 上智大学、明治大学、法政大学、共立女子大学等の学生の協力を得て、多世代交流カレッジを実施（8回・のべ参加者：348名※オンライン含む）</p>	<p>【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）!～】</p> <p><収入状況> 収入予算額 3,888,000円 収入決算額 3,875,200円 執行率：99.7%</p> <p><支出状況> 歳出予算額 3,888,000円 歳出決算額 2,291,378円 執行率：58.9%</p> <p><分析> ①飲食をともなう多世代交流食堂やコーヒーサロン等、中規模イベントの中止により支出減となった。 ②その他、多世代で楽しむ大規模なイベントの小規模化にともない、支出減となった。</p> <p><総評> 事業の多くは対面で実施できたが、感染対策として参加者同士が一定の距離を取ったり、近距離での会話を控えたりと、交流の促進には制限が生じた。しかし、区内大学の放送部、落語研究会、防災ボランティア活動団体等に積極的にアプローチし、ボランティア参加を呼びかけた結果、多くの大学生ボランティアと多世代交流との関わりができた。</p>

7 区としての評価・今後の方向性

高齢者活動センターではコロナ禍での利用者の心身機能の低下を防止のため、安全に十分配慮し事業を早期に再開させた。
研修センターでは介護職の魅力発信を行う一方で介護職の就職支援や、資格取得支援を行い、参加者の資格取得や区内事業者への就労につながった。また、研修にEラーニングを活用するなど、受講者が参加しやすい工夫が行われた。多世代交流拠点では区の地域特性を生かした大使館等との連携など興味深い取り組みが行われた。
今後は引き続き安全に配慮し、参加者目線に立った事業内容・周知方法の工夫により、高齢者総合サポートセンターの認知度向上、利用者の増を図ってほしい。

8 今後の指定管理に区が期待すること

良い内容の事業を多数実施しているものの区民の認知度が伸び悩んでいる。
周知方法を工夫し認知度・利用者の増を図って欲しい。
かねてより課題だった利用者の地域偏在解消についてサテライト会場の設置等工夫した運用で解消を図って欲しい。
コロナ禍における安全な施設・事業運営を徹底して欲しい。